

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 31 年 1 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

播種適期である 12 月上旬までに 9 割程度の播種が終了しました。11 月中旬以降、気温が高かったため生育は早く、11 月下旬播きは 4 葉期で、追肥や土入れ、麦踏みが行われています。12 月上旬播きは 3 葉期で、これから麦踏みが行われます。播種後、気温が高く、降水量もやや多かったため、雑草の発生は早いです。

排水溝を整備し、排水対策の徹底、追肥の施用、土入れ、麦踏みを行いましょ。また、雑草の発生を確認し、発生の多いほ場では、適期に対策を実施しましょ。

◇施設キュウリ◇

10 月中下旬定植の促成作型は、12 月上旬の出荷の山と 12 月下旬の高単価に合わせた高温管理による出荷量の増加により、現在、成り疲れで草勢はやや弱めであり、生育は停滞気味です。花数は少なくなっています。病害虫の発生は少ないですが、一部でヨトウムシ類による被害が散見されます。半促成作型は 1 月下旬から順次定植が始まる予定です。

日中のハウス内温度の確保、こまめなかん水、炭酸ガス施用等により、草勢の回復に努めましょ。また、灰色かび病、べと病の発生を抑制するため、草勢や温湿度管理に注意しましょ。

◇冬春ナス◇

11 月下旬～12 月上旬の大きな出荷ピークによる成り疲れで草勢が低下していましたが、現在、着果負担が軽く、草勢は回復傾向です。切り戻し後の側枝は強くなっており、花が増加しています。2 月上旬以降に出荷量が増加する見込みです。灰色かび病等の糸状菌による病害は少ないですが、軟腐病等の細菌性病害が散見されます。また、年内に多発したコナジラミ類が現在も一部で発生しています。

2 月中旬までに不要な芽を整理し、生育促進のため、ハウスの保温性向上に努め夜温を確保するとともに、昼間のハウス内気温を 28～30℃に保ちましょ。また、春先にコナジラミ類の増加が懸念されるため薬剤防除等の対策を徹底しましょ。

◇温州みかん◇

普通温州を出荷中で、出荷量は前年より多い見込みです。果実品質は、糖度が並み～やや高く、酸度は並み～やや低いです。果実の出荷は、2 月までの予定で、12 月下旬までの温州ミカン全体の出荷進捗率は 9 割程度です。

貯蔵果実の管理は、庫内温度 3～5℃、湿度 85%を目安に、天候や果皮の状態に応じて換気を行いましょ。また、定期的に庫内を見回り、腐敗果の除去を徹底しましょ。

う。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷作型（10～12月）は、10月中旬以降、日照時間に恵まれたことから、生育障害の発生は少なく、安定した出荷となりました。販売単価は、昨年よりもやや下落したものの、大輪・八重系の品種が評価され、平均150円/本以上と高くなりました。春出荷（3～4月）作型の生育は順調で、2次小花の発蕾後、整枝と摘蕾作業が実施されています。

春出荷（3～4月）作型では、適時、整枝と摘蕾作業を継続し、ブラッシング対策を徹底しましょう。また、灌水量は少な目で管理し、急性萎凋症の発症を防止すると同時に、ハウス内の湿度を低下させ、斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

◇豚、鶏、肉用牛◇

豚枝肉価格は、鍋物商材の荷動きが悪く、在庫過剰感があり低調となりました。

鶏卵価格は、供給量増加に伴い、低調となりました。

和牛去勢枝肉価格は、7月以降、前年を上回る堅調な価格で推移していましたが、12月は5月ぶりに前年を下回りました。しかし、過去5年平均を上回る水準です。交雑種見合いの省令価格は、過去5年平均を上回る水準です。

厳寒期となったので子牛の防寒対策を徹底しましょう。また、家畜伝染病予防のため、舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。